

2021 年 入試改革

共通テスト「実施要項」公表！

「第 2 日程」は原則、現役生のみ、
大学への成績提供は約 1 週間後ろ倒しに！

旺文社 教育情報センター 2020 年 7 月 3 日

大学入試センターは 6 月 30 日、本年度行われる 2021 年の共通テストについて「実施要項」を公表した。注目の第 2 日程の対象者は原則、現役生で「学業の遅れ」を学校長が認めた者。大学への成績提供は、第 1、第 2 日程がこれまでの予定(私立大=2 月 2 日)から約 1 週間遅れの 2 月 8 日以降、特例追試が 2 月 18 日以降となった。

特に私立大の共テ利用入試で、2 月 8 日より前に合格発表を予定していた大学はすべて日程を変更せざるをえない。その玉突きで、入試日程全体に影響が出る可能性もある。

●これまでの経緯

例年であれば 6 月初旬に文科省が「入学者選抜実施要項（その年の入試全体のルールを示したもの）」を公表し、それを受ける形でほぼ同時期に入試センターが共テ実施要項を公表する。新入試初年度、共テ初年度という点では、すでに日程や実施方法は発表されており、いずれも既報の「まとめ版」のような位置づけになるはずだった。

ところがこの新入試初年度を新型コロナが襲った。ほとんどの高校で 3 月頭から 5 月末まで学校休業が続き、今後、感染が拡大するのか、収束するのかもわからない。2021 年の大学入試は急遽、大幅な変更を余儀なくされた。

選抜実施要項は、例年よりも半月遅れで 19 日に文科省が発表。共通テストは例年の「本試⇒追試(1 週間後)」ではなく、「第 1 日程⇒第 2 日程(2 週間後)⇒特例追試(2 週間後)」という日程が示された。この突然で大幅な変更共通テストの詳細はどうなるのか。共テ実施要項でこれらの点が明らかになった。

共テ 実施要項のポイント

※記事中「第 1 日程」「第 2 日程」の呼称は、萩生田文科相によるもの(6 月 19 日会見より)。共テ実施要項では日程の呼称はない。

●各日程の詳細

【第 1 日程】

- ・実施 … 1 月 16 日、17 日
- ・中間発表(平均点等) … 1 月 20 日(予定)
- ・得点調整の有無 … 1 月 22 日(予定)

【第2日程】

- ・実施 … 1月30日、31日
- ・中間発表（平均点等） … 2月3日（予定）
- ・得点調整の有無 … 2月4日（予定）

- ・対象者は原則、現役生、かつ「(新型コロナによる学校休業を要因とした) 学業の遅れ」を学校長が認めた者。
- ・「第1」、「第2」の選択は、出願時に受験生が行う。
- ・試験場は全都道府県に設定。
- ・「第1」の追試験（病気、ケガなどが理由、各大学が審査）、再試験（雪、地震などが理由）としても実施。

【特例追試験】

- ・実施 … 2月13日、14日

- ・「第2」の追試験として実施（病気、ケガなどが理由、各大学が審査）。
- ・試験場は原則、全国2か所。
- ・問題、時間割等はセンター試験と同様（後述）。

【その他全体】

- ・問題、正解、配点の発表は各日程の実施後、速やかに行う。
- ・得点調整は「第1」「第2」それぞれで行う。両試験間では行わない。
- ・平均点等の最終発表 … 2月18日（予定）
- ・共通の成績開示も（大学⇒受験生）、成績通知も（入試センター⇒受験生）、「4月中旬以降⇒4月1日以降」に前倒し。

●大学への成績提供

- ・第1、第2日程 … 2月8日以降。
- ・特例追試験 … 2月18日以降。

- ・大学へ提供される各科目の得点等の内容は例年どおり（国語の分野別、英語のRL別得点など）。
- ・大学が入試センターに納付する手数料は受験生1人1回570円⇒750円に値上がり。

※大学に新たに提供される成績の段階表示（スタナイン）は後述。

出願時に「第1」「第2」を選ぶのは受験生本人)。単なる調査に過ぎないとはいえ、生徒に聞くのであれば特に「第2」のメリット、デメリットを正しく伝えたいうえで判断させる必要がある。むしろ「第2」はリスクが高いといえる。(以下は弊社 [6月23日記事](#) の再掲)

【「第2」のメリット】

- ・「第1」より2週間の学習時間が得られる。
- ・初の共テ問題を「第1」で見てから試験に臨むことができる。

【「第2」のデメリット】

- ・近くに試験会場が設置されないかもしれない(「全都道府県」とはいうけれど…)
- ・以降の入試日程が非常にきつい(翌日の2月1日から私立大入試はスタート、おそらく国公立大の出願も日がない。2次対策の期間も短くなる)。
- ・万が一、コロナやインフルに罹患して「第2」が受けられなかった場合 ⇒ 特例追試へ ⇒ それこそ受験できない入試が出てくる。

【現状の不明点】

- ・国公立大の入試日程。見直しになる可能性が高く、特に現状予定の「出願シメ=2月3日」がどうなるか。
- ・予備校は「第2」も自己採点を行うのか。どのようなスケジュールになるのか。

●入試日程への影響

今回の共テ実施要項の発表で大学に影響が大きいのは、成績提供日の変更だ。これまでの予定では「私立大=2月2日から、国公立大=2月4日から、国公立大の共テ課す総合型&推薦型=2月3日から」だったのが、「第1、第2日程=2月8日以降」と1週間近く後ろ倒しになった(特例追試=2月18日以降)。国公立大、私立大の別は示されていない。

例えば私立大の場合、共テ利用入試と独自入試でそれぞれ歩留りの状況を見ながら、次の入試の合格者を出していく。さらには競合他大学の入試もからんでくる。定員超過率は厳格化の措置が取られたままだ。「共テの成績提供が遅れる⇒2月初旬の共テ利用入試の合格発表が遅れる⇒玉突きで後の日程に影響する」。本年度に関しては、国は定員超過率を緩和すべきではなかろうか。厳格化されたままでは、3月末に追加合格の嵐が吹き荒れる可能性がある。この事態は受験生にとっても好ましくないはずだ。

国公立大も成績提供日の変更はどう対応するか。実は今回変更された成績提供日は、共テで記述式の構想があった時のものに近い(記述式の採点で例年よりも1週間後ろ倒し=2月11日が予定されていた)。国大協も公大協もこの日程で当時、2021年入試スケジュールを発表していた。

当時のスケジュールはそれでも日程を詰めて、一般入試は例年どおりに実施するという力技だった(出願日、試験実施日、合格発表日、いずれも例年どおり)。

今回も試験実施日は動かさないことがわかっている(文科省7月1日「試験期日及び試

験実施の際の配慮事項について)。問題は出願締切日だ。「第2」と「特例追試」にどう対応するか。

今後は国大協、公大協がおそらく日程の見直しを発表し、国公立大が選抜要項や入試ガイドを今月中に発表する流れになる。

(2020.07 石井)

【2021年 国公立大 入試スケジュールの変遷】

		共テ記述式 構想下	⇒	共テ記述式 見送り後	⇒	今回 変更後
共通テスト 実施日		【本試】1月16日、17日 【追試】1月23日、24日	⇒	ママ	⇒	【第1】1月16日、17日 【第2】1月30日、31日 【特追】2月13日、14日
一般選抜 出願		1月25日～2月3日	⇒	ママ	⇒	?
センターからの 成績提供		2月11日～ (国公立大 一般)	⇒	2月4日～ (国公立大 一般)	⇒	2月8日～ (特追2月18日～)
推薦型(共テ課す)、 総合型 合格発表		～2月16日	⇒	～2月10日	⇒	?
前期	試験実施	2月25日～	⇒		⇒	試験実施ママ ↓ 合格発表もママ と予想
	合格発表	【国】3月6日～10日 【公】3月1日～10日	⇒			
中期	試験実施	3月8日～	⇒	ママ	⇒	
	合格発表	3月20日～23日	⇒			
後期	試験実施	3月12日～	⇒		⇒	
	合格発表	3月20日～24日	⇒			

記述式導入で成績提供が1週間後ろ倒しに。推薦型(共テ課す)と総合型の合格発表も同様。ただし一般入試の日程は例年どおり。

記述式見送り後、成績提供など、日程はすべて例年どおり。

「第2」で再び成績提供が後ろ倒しに。この影響で特に一般選抜の出願日はどうなるか。